

## 第1回 青森市総合計画審議会 第1分科会 議事要旨

- 【日 時】 令和5年10月30日（月） 9:50～12:00
- 【場 所】 ホテル青森 3階 富士の間
- 【出席者】 竹内 紀人 分科会会長、石岡 有佳子 委員、佐藤 健一 委員、  
福士 修身 委員 計4人
- 【欠席者】 森 庸 委員
- 【オブザーバー・傍聴者等】 なし
- 【関係部局】 織田企画部長、横内経済部長、大久保農林水産部長、館山浪岡振興部長、  
小笠原農業委員会事務局長 計5人
- 【事務局】 小野企画調整課主査、沼田企画調整課主事 計2人

## 【配付資料】

- ・次第
- ・各種統計データ
- ・青森市総合計画前期基本計画 フォローアップ表
- ・SDGsの概要
- ・青森市財政プラン（2019～2023）
- ・日程調整表

## 【会議概要】

- 当面のスケジュールと今後の流れ、本分科会の役割を確認した後、配付資料について事務局から説明。各委員が意見を出し合った。

## ○審議、質疑応答の概要

## 「産業・雇用」分野

（委員）

- ・青森市の人口は社会動態も含めてマイナスに向かっている。賃金が東京や全国平均に負けているから。特に初任給。賃金に関する指標はないが、そこは考えていく必要がある。
- ・夫婦共稼ぎが当たり前になると、どうしても母親の負担が大きくなる。5歳階級の出生コーホートで合計特殊出生率を見れば、20年前と比べて、いかに子どもを産みたくても産めなくなっているかが分かる。

（委員）

- ・そもそも母親の数が減っている。特に若い女性の流出というのは県でも市でも大問題になっている。我々はそのことを踏まえて議論しなければならない。

（委員）

- ・女性のみでドローンによる農薬散布を行う団体を立ち上げたが、保育の面において、早朝や夜間に対応している事業者が少ないため、女性にとっては障壁となっている。
- ・起業に当たり、スタートアップセンターを利用した方ではないが、相談窓口があることはすごく心の拠り所になると思う。

(委員)

- ・スタートアップセンターの起業・創業件数は評価したい。相談員の方も精力的だ。ただ、実際に起業されている方から見ると、まだ足りないものがあるのかもしれない。
- ・女性のみでドローンによる農薬散布を行う団体を立ち上げたということだが、なぜ農業、なぜドローン、というところを少し教えていただきたい。

(委員)

- ・様々な教育方法のひとつに、プログラミング教育があり、そこでドローンを扱ったワークショップを行っていた。また、実際に農業を手伝い、体験していく中で農家の課題も見えてきた。農家は段々と高齢化が進む。気付いた時には担い手がない。そこを第三者という立場で事業をサポートすることを考えた。

(委員)

- ・農業の話をするれば、以前に比べればリンゴの単価も上がり、農家として生活できる状況になりつつあるが、新規就農者はなかなか定着しない。国の資金制度もあるが。

(委員)

- ・国の新規就農者への支援金は1年当たり150万円。

(委員)

- ・そのとおり。ただし、そもそも1年当たり150万円では足りないと、農家を断念する人もいる。

(委員)

- ・財政的な支援の限界。

(委員)

- ・また、鳥獣被害で言えば、リンゴは鳥による被害が多い。スピーカーで音を出すなど対策は講じているものの全然効果がない。

(委員)

- ・青森市の産業構造は圧倒的に第3次産業が多い。対面型の非製造業がこれからも中心であるだろう。スタートアップセンターで起業・創業件数を増やしていくことも大事だが、既存産業のDX化についても進める必要がある。

## 「観光」分野

(委員)

- ・冬季観光については、手元にある「食」や「文化」を磨いていかないと、魅力増には繋がらない。冬の観光は良くならない。
- ・クルーズ船で海外から時間と金を持った客が来るが、金を使ってもらうにはキャッシュレスでなければならない。客が不便だと感じる部分をフォローしないといけない。

(委員)

- ・観光資源は何かといえば、もちろんそれはねぶたであり、浅虫温泉である。
- ・今は長期滞在型のパターンもある。観光客を楽しませる工夫も大事になってくる。

(委員)

- ・弘前は、ねぶたの前にも、例えば宵宮だとか、神社や寺で行う行事がたくさんある。青森でも、ねぶたに付随した行事みたいなものを抱き合わせでやって、長いお祭りみたいなことになれば。
- ・例えば、油川地区のかかしみたいな。

(委員)

- ・今まで商品になっていなくても、自分たちでずっと続けられているものは、やはり確かなもの。それを情報発信すること。可能であれば英語で。
- ・個人のランドオペレーターみたいな人がいればいい。

(委員)

- ・ランドオペレーターの話、それは人手不足を解消する部分にも繋がるかもしれない。

(委員)

- ・年間を通して収入を得たい人には不向きでも、短期間の仕事で収入を得たい人には向いている。

#### 「農林水産」分野

(委員)

- ・スマート農業については、コメ農家の場合はドローンを使って農薬を散布することはあるが、果樹関係はやっぱり手作業になる。
- ・加えて、人手不足という状況。今までシルバー人材センターを使ってきたが、草刈りはできて、高いはしごに上るリンゴの作業はできない。

(委員)

- ・人材をどう確保するのかということ。農業環境、少なくともリンゴに関しては好転しているが担い手がない。

(委員)

- ・先程も言ったように、すき間で、繁忙期だけ収入を得る方法もある。農家の仕事は基本的に他の職業より賃金が高い。なぜなら大変だから。ただ私としては大変というより、やってみて楽しいというのが感想だったので、そういったところもPRできればいい。

(委員)

- ・ホタテに関して言うと、陸奥湾の海水温の上昇は、一時的ではなく今後も続く気がする。要するに陸奥湾はホタテの養殖には向かないということ。地球の温暖化とか海流の変化という、市が単独で対処できるような問題ではない。
- ・農業もいずれ法人化していかなくてはいけない。自由な経営体制のもとで、例えば2時間でも3時間でも働く人を受け入れつつ、1年中休みがないというイメージを払拭していかないと。
- ・農地の大規模化に向けた取組が必要。

(委員)

- ・コストを下げるということを考えれば、1箇所を集積していくというのが一番良い。

(委員)

- ・質のいいコメを作ると高く売れる、そのためには収穫量を減らしてもいい。コメを1条、2条と植える際に条間を空ける。風通しが良くなると、虫が付きにくくなり、使う農薬が格段に少なくなる。

(委員)

- ・世界的な食料危機の問題からたくさん作って売ったらいいという考えがある一方で、質のいい高く売れるコメを作る、よって収穫量を減らしてもいいという考えもある。
- ・卸売市場の年間取扱高が細っている。ホタテでも、リンゴでも、コメでも、気候や人力的な問題もあって生産量縮小やむなしとはいえ、いろんな道を探らなければいけない。

#### 「その他」分野

(委員)

- ・自身の体験から言葉の壁を難しく捉え過ぎていたことに気付くとともに、青森の人は、海外の人に対してどう接したらいいのか分からない。自分たちの住んでいるところに目を向けつつ、青森の素晴らしさを自分たちの言葉で発信していくことが必要。

(委員)

- ・学生を見ていても、あれだけ多くの留学生がいるのに話をしない。話さなくてもいい人とは話さない、みたいなものが出来上がってしまっている。それを変えるには、結局、人と交わらないといけない。

(委員)

- ・先程の説明で少し気になったが、「課題及び目指すべき方向性」の中にたくさん「コロナ」という言葉が出てくる。これは新しい計画にも盛り込まれる予定なのか。

(事務局)

- ・資料「青森市総合計画 前期基本計画 フォローアップ表」は、今ある総合計画に基づいて市が色々やってきた施策を評価し、目標に対してどうだったか、そこで課題を見つけるといふ仕立てのため、「コロナ」という言葉がたくさん出てくる。今後、御審議いただく基本構想は、10年後の未来を見据えてどうやっていくかと、いうまとめ方になっていく。したがって、「コロナ」に対処しなきゃいけないという表現からは、かなり離れたものになる。

(委員)

- ・鳥獣被害対策は各市町村でやり方が全然違うらしい。鳥獣は青森市にだけいるわけではない。東青管内は足並みを揃えてやっていくべき。

(委員)

- ・青森市はこの広域圏の中心都市として様々なことに取り組んでいかななくてはならない。今の鳥獣の管理も含めて。

(委員)

- ・現状、スタートアップセンターは、「セミナーやっているから来てください」、「相談あったら来てください」となっている。サテライト的な機能で、例えば今別や外ヶ浜などとオ

ンラインで繋げることで、スタートアップセンターの力をより活かせるのではないか。

○次回開催の分科会の日程等に関する事務連絡を行い解散。